

Ⅲ 地域学校編

柏尾に住む人の「小学校の思い出」は少なくとも二つに分かれます。

昭和44年までに卒業した人は「旧川上小学校の思い出」、それ以降の人には「柏尾小学校の思い出」として残っているでしょう。

この編では、柏尾に初めてできた「旧川上小学校」から現在の柏尾小学校が生まれるまでの歴史を簡単に紹介しています。それと併せて、昭和初期の小学校の様子や、授業科目、「昔のあゆみ」などの紹介もしています。

後半では、地域のお年寄りから編纂委員が聴き取りをした、昔の川上小学校の生徒の生活がとても懐かしく語られています。

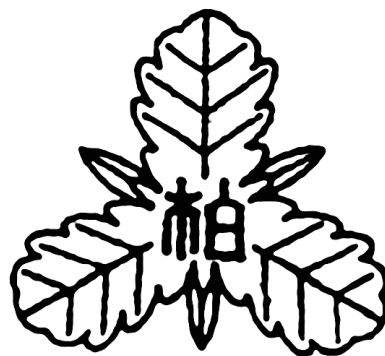
また卒業生自身が書いた思い出、南北両分教場のことや校庭にあった二宮金次郎の銅像、三橋校長先生の思い出なども語られています。

この編は、現在の柏尾小学校の児童にこうした地域の学校の歴史を教えるための資料として先生方やPTA関係者が主に編集したものです。多くの卒業生から当時の貴重な写真や資料を提供していただきました。

小学生の皆さん、こうした貴重な体験、記録を是非一生懸命読んでみてください。



<川上小学校の校章>



<柏尾小学校の校章>

旧川上小学校の校章は、鎌倉武士の象徴である「笹りんどう」をアレンジしたものです。そして、柏尾小学校の校章については、旧川上小学校を引き継いでいくのがよいとされ、旧川上小学校で使っていた「笹りんどう」と「柏の葉」をアレンジしたものとなりました。「笹りんどう」は、郷土の歴史的伝統があり、常に理想を持って前向きに進んでほしいという願いもあり、そして「柏の葉」三枚は、真・善・美を表わし、健康でたくましく立派に育ってほしいという願いがこめられています。そして、校旗は開校の年の昭和44年10月に柏尾町内会より贈られました。



〈昭和 3 年当時の旧川上小学校校舎全景〉
御真影奉安殿と校旗

1 柏尾の学校のはじまり

(1) 柏尾小学校ができるまで

柏尾町にある柏尾小学校は、どのようにしてできたのでしょうか。そのことを調べてみましょう。

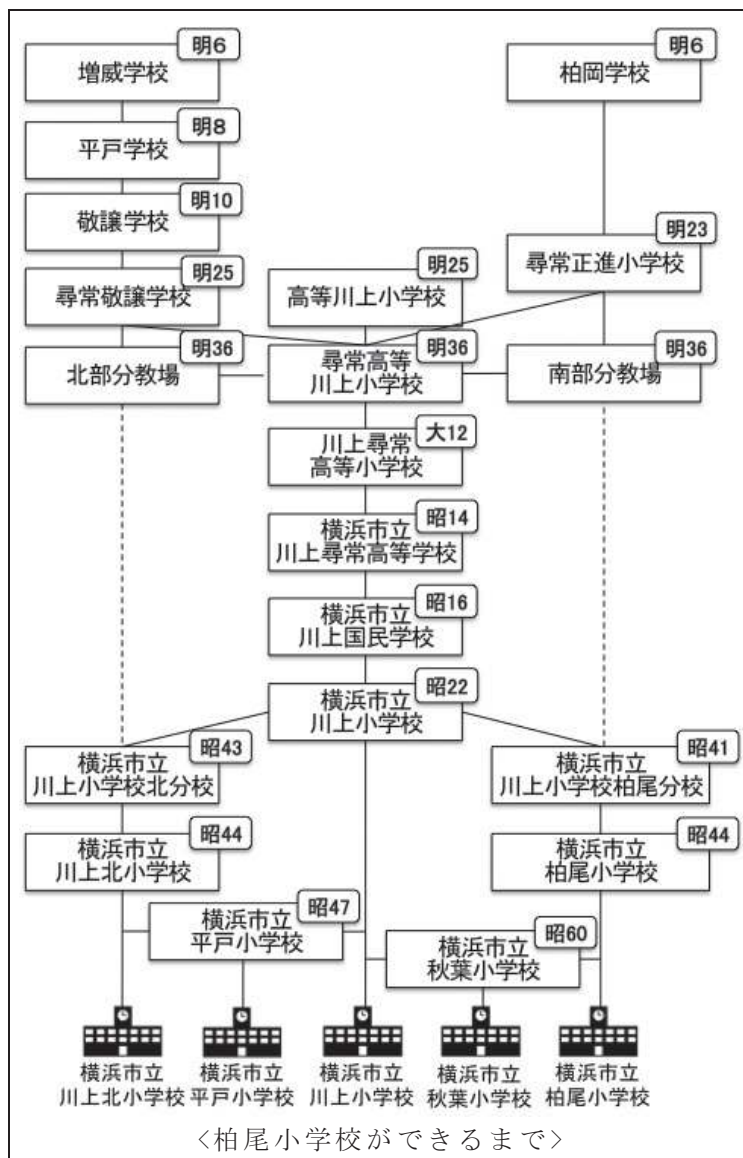
まず「学校」を日本全国につくりなさい、というきまりが明治5年(1872)にだされました。それを受けて、翌年に旧川上村に増威学校と柏岡学校という学校がつけられました。この柏岡学校が今の柏尾小学校のはじまりです。舞岡の神奈中バスの車庫のあたりだそうです。

でも、その後すぐに柏尾小学校になったわけではありません。二つの学校がそれぞれ敬讓小学校、正進小学校と名前を変え、明治36年(1903)に尋常高等川上小学校として統合され鎌倉郡川上村下柏尾637番地に新しく校舎が建てられました。そして、敬讓小学校は北部分教場、正進小学校は、南部分教場として残りました。

その後、関東大震災や太平洋戦争を経て、昭和22年(1947)横浜市立川上小学校となりました。また、番地も昭和14年(1939)下柏尾637番地から、横浜市戸塚区柏尾町637番地と変更されました。

昭和41年(1966)南部分教場が今の柏尾小のある場所に移り、柏尾分校とされ、いよいよ柏尾小学校開校の準備が始まりました。その3年後の昭和44年4月1日(1969)横浜市立柏尾小学校が誕生しました。ちなみに、北部分教場は同じ年に横浜市立川上北小学校として開校しました。

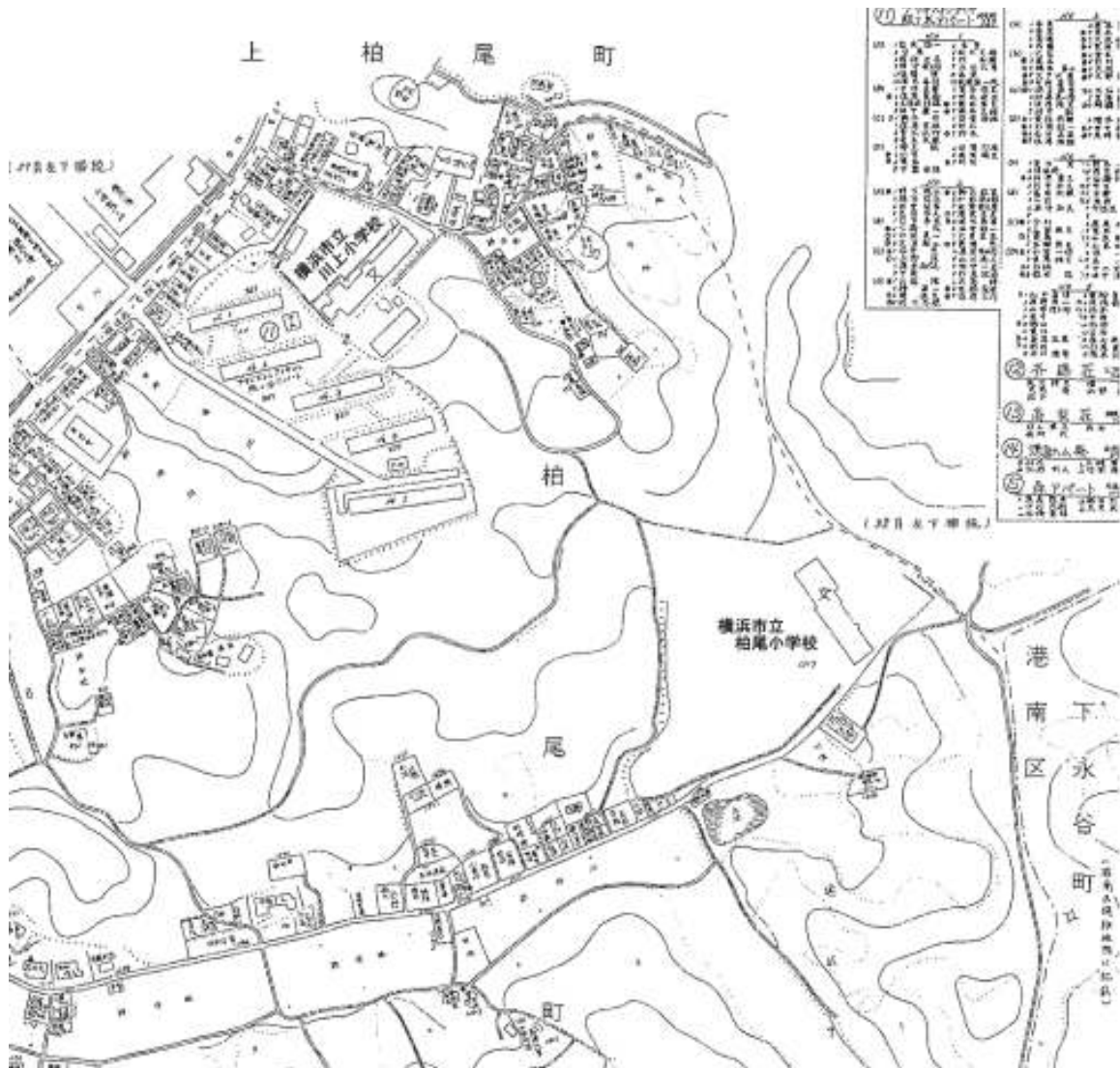
図を見ると、一つの学校からたくさんの学校が生まれていることがわかります。柏尾小学校、川上北小学校だけでなく、平戸小学校、秋葉小学校。また柏



尾小学校からは、舞岡小学校が生まれています。このようにどんどん学校が増えていった理由を考えてみましょう。

(2) 柏尾町に小学校が二つ

下の地図を見てください。昭和46年（1971）の地図です。みなさんのよく知っている柏尾小学校は見つかりましたか。でも、よく見ると柏尾小学校のすぐ近くにもう一つ小学校があります。「川上小学校」と書いてありますね。これが、旧川上小学校です。おもしろいことに、このころ柏尾町には小学校が二つ、すぐ近くにあったのです。



<昭和46年（1971）当時の柏尾町>

柏尾小学校ができた3年後の昭和47年（1972）、川上小学校は、秋葉町に新しい校舎を建てて今の場所に引っ越していきました。明治36年（1903）に開校してから、およそ70年ものあいだこの柏尾町に旧川上小学校がありました。みなさんの近所にも、旧川上小学校を卒業した方がたくさん住んでいます。ぜひお話を聞いてみましょう。

また、旧川上小学校があった所は今どうなっているのか調べてみるのもおもしろいですね。もしかしたら、学校のあった証拠が残っているかもしれませんよ。



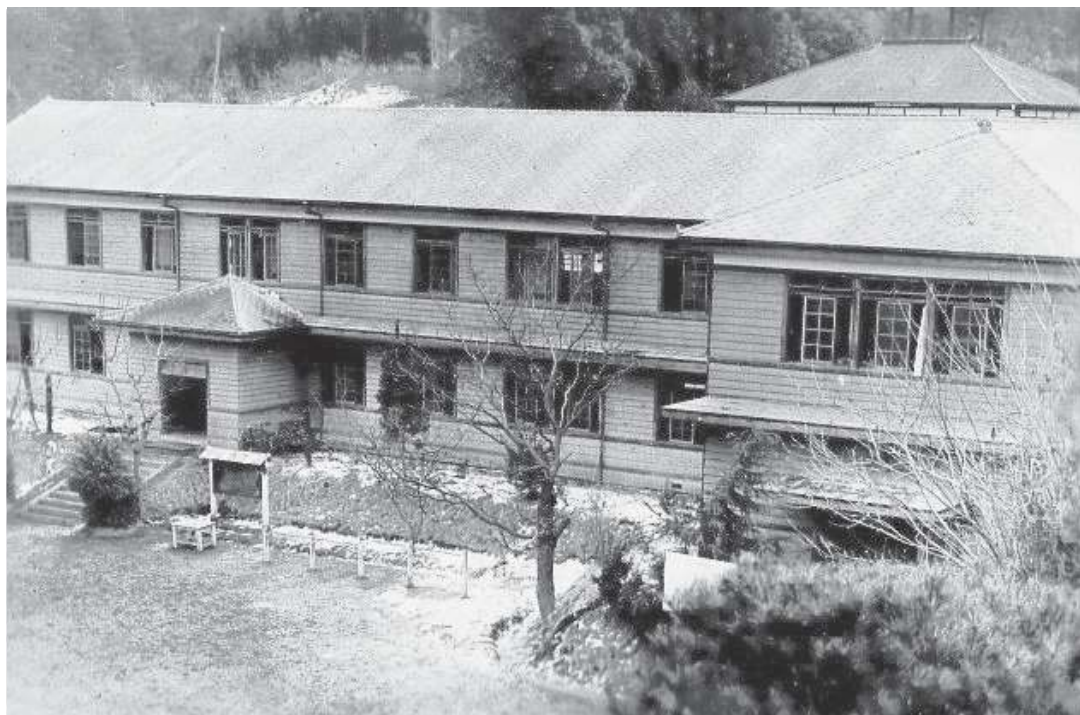
<昭和 45 年当時の旧川上小学校>



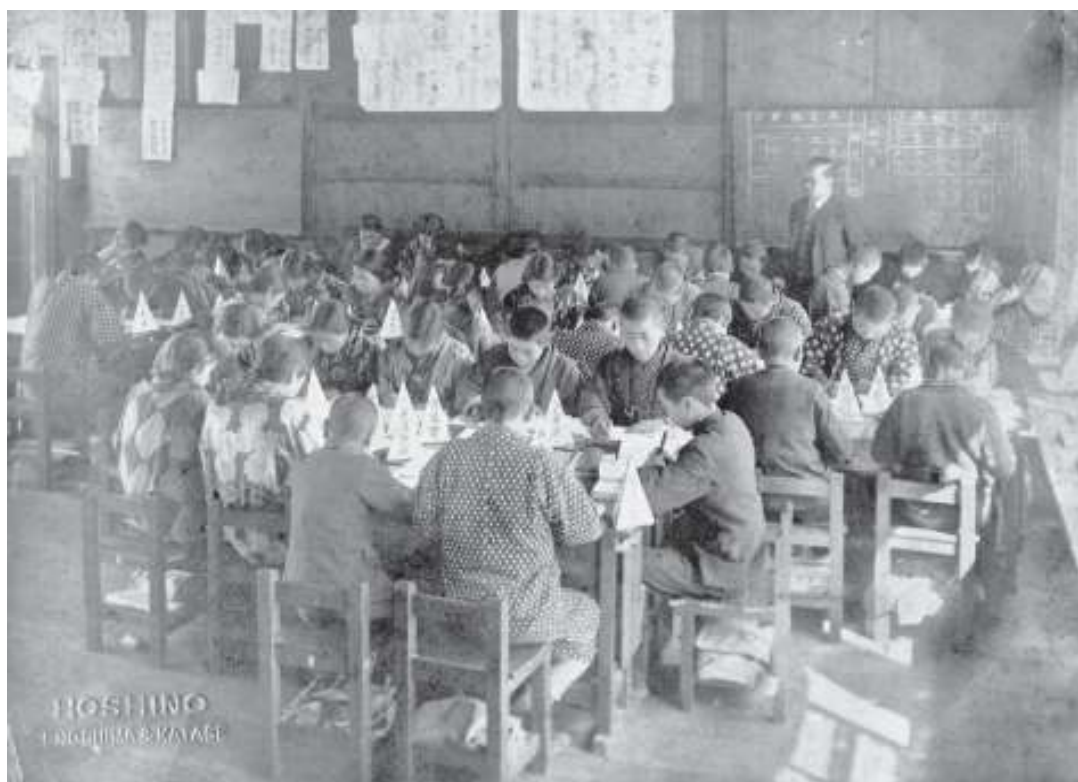
<昭和 44 年当時の柏尾小学校>

2 旧川上小学校の思い出について

加藤榮作さん(昭和8年入学)・加藤幸吉さん(昭和9年入学)・
齋藤繁助さん(昭和10年入学)のお話から



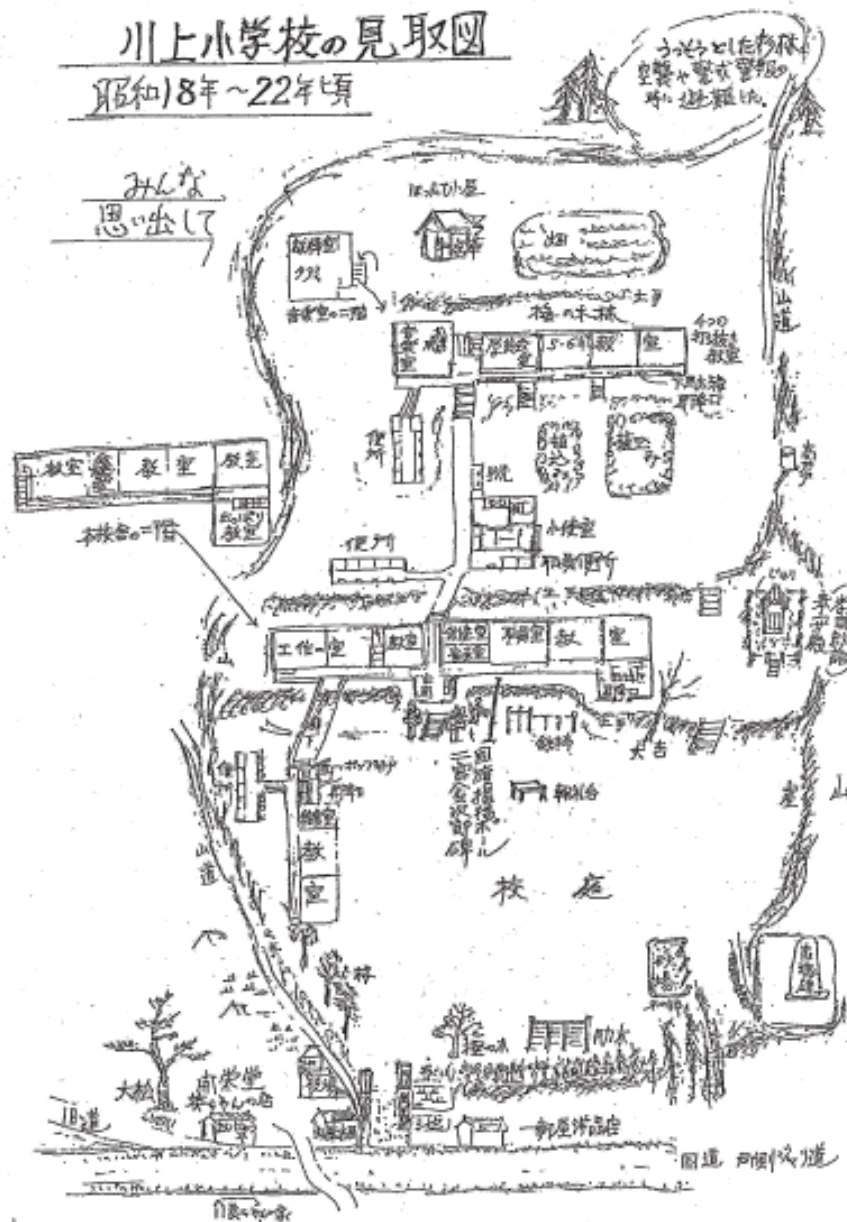
〈旧川上小学校新校舎〉



〈昭和12年の授業の様子〉

(1) 学校について

門を入ってすぐ左手にあった桜の木がとても大きく、印象的でした。とにかく友達が多く、学区の範囲が広がったようで、七つの地区から登校していました。校庭はせまく感じ、野球をした記憶があるそうです。



〈旧川上小学校の見取り図：川上小学校所蔵〉

(2) 授業について

1 学年、1 クラス 5 2 名で授業を行っていました。

体育のときは上半身裸、はだしで行い、相撲やマラソンなどをしました。昭和 1 5 年には 2 泊 3 日で修学旅行に行きました。旅行先は京都・奈良。およそ 1 2 時間汽車に揺られていきました。昭和 1 6 年当時、あまり戦争色はなかったそうです。そのうち、教育勅語を暗記させられました(今でも半分ぐらいは覚えているそうです)。戦地の兵隊さんへ慰問文を書く授業もありました。戦争に関する標語をつくる授業もありました。朝会では軍隊と同じような曲を、ラッパの音で行進を行いました。

(3) 学校での遊びについて

校庭で野球をしていた記憶があります。ボールが外へ飛び出し、池に落ちたりガラスを割ったりして謝りに行ったことがあります。今の優彩の街の所は畑になっていて、いちごや大根、サツマイモなどを育てていました。収穫したものは、売ってお金にしていました。



〈昭和 12 年のすもうの様子〉

(4) 昼食について

昼休みは 4 5 分。お弁当を持って行きました。お弁当の中身はご飯に梅干し、たくあん、いわゆる日の丸弁当。のりも入っていることもありましたが、後半

(戦争が激しくなってくると)はご飯に麦が混じったり、おかずが減ったりしました。

冬はお弁当を温めるために箱に入れ、下段に炭を下に敷いていました。おもちを弁当に持っていくと、箱の底に1枚になっていることがありました。

3 昔の通信簿(あゆみ)



<昭和10年頃のあゆみ>

上の写真をみてください。昭和10年(1935)に小学校に入学した齋藤繁助さんの通信簿、今の「あゆみ」です。みなさんのもらうあゆみとどんなところが違うでしょう。

まず、右側をみてください。教科が書いてありますね。国語や理科など今でもある教科もありますが、算術や唱歌など今はない教科の名前もあります。どのような内容だったのでしょうか。

次に中央あたりに書いてあるのが評価です。今は◎・○・△で表されますが、甲・乙・丙で表してあります。また、五年生からは数字で表されています。齋藤さんは成績優秀なのが見えますか？

その他にも、さまざまな同じ点、ちがう点があります。少し小さい字で見にくいかもしれませんが、よく見て、たくさんの発見をしてみてください。

4 旧川上小学校の思い出について 2

旧川上小学校の歴史について、どんなことを発見できたでしょうか？ 柏尾町には今も旧川上小学校の卒業生が多く住んでいます。卒業生の一人である齋藤純一さんが、次のように思い出をお話してくれました。



〈北部分校（左）と南部分校〉

「創立100周年記念誌かわかみ」より

当時の川上小学校の学区

は品濃町の山奥から舞岡町の山奥までとても広いものでした。そうした遠方から旧川上小学校に通学するのはとても大変なことで、1・2年生は南部・北部の分校で勉強することになっていました。そして、3年生になると初めて本校に通うことができました。舞岡町の一番奥に住んでいた友だちは、毎日片道1時間以上かけて現在の舞岡公園の前を通り、道岐橋を越え、舞岡幼稚園の脇から山を登り、富士見台を抜け（当時富士見台は山しかなかった）、柏尾の薬師の坂を越え、王子神社の脇から旧東海道へ抜け、ようやく本校へたどり着いたのです。雪の日などは2時間以上かかった友だちもいました。毎日柏尾ウォークをしていたようなものですね。ところが不思議なことに、そうした遠方から来る友だちはめったに遅刻することはなく、反対に遅刻するのはいつも学校の近所の友だちでした。

旧川上小学校の正面玄関階段の右側に、薪を背負い、本を読みながら歩む、二宮金次郎の銅像がありました。昭和14年（1939）に建設されたと「創立100周年記念誌かわかみ」に書かれています。卒業生の中には、「川上小学校」というと、この銅像を思い出す人も多いと思います。卒業記念の写真や同窓会の写真には、必ずこの銅像が写っていました。旧川上小学校が柏尾小学校と新川上小学校に分かれた昭和44年に、この銅像は新川上小学校に移され、現在も小学校入口に立っています。しかし、旧川上小学校が柏尾町にあったことを思うと、いつの日か、この銅像を柏尾小学校に戻したいと考えている人も多いでしょうね。



〈二宮金次郎の銅像の前で〉

旧川上小学校には「三橋正太郎」というとても有名な校長先生がいました。それもそのはずで、三橋校長先生は大正10年（1921）から昭和30年（1955）

まで、何と35年間も校長先生を続けてくれた人だからです。今のように3年くらいで交代する時代では、とても考えられないほど長いですね。当時の卒業写真の中央には、必ず温和な校長先生がいました。昭和15年の修業証明書を見ると、「神奈川県鎌倉郡川上尋常高等小学校長 三橋正太郎」の名前と「従7位勲7等」という称号が書いてあることから、すぐれた働きを長く続けたことが国からほめられたことが分かります。前述の「かわかみ」の中でも、卒業生の「思い出」として「3代目の三橋校長先生は（略）記録的に長い間勤められたので文部大臣表彰を受け、退職後も品濃町に住まわれ、保護司として大いに活躍されました。」と書いてあり、「奥様の三橋のぶ子先生とともに蓮久寺の墓地に葬られています」とも書いてあります。まさに、勉強を教えることに一生懸命だった校長先生でした。今でも多くの卒業生が、三橋校長先生の名前の入った卒業証書や修業証明書を宝物のように大事にしています。



〈三橋校長先生〉
(昭和13年)
加藤栄作氏所蔵

5 柏尾会の発足の経緯について

平成7年(1995)4月1日、私は横浜市立柏尾小学校第9代校長として着任しました。そして、当時のPTA役員の方々の笑顔で出迎えを受けました。

また、私の初任校が旧戸塚区(現在の泉区)であり、故郷に戻ったような気がしていました。加えて、前任の石川邦彦さんは、お互いに若い頃から知っている間柄でありました。

そんなこともあって、柏尾小学校に着任したときには、既に愛校心に漲っていました。しかし、実際に勤務してみると、石川邦彦さんが、私の何倍もの愛校心を持たれ、柏尾の地域を大事にして学校経営に当たっていたということを様々な場面で痛感することができました。実際、私がこれまで勤務したどの小学校よりも、地域と学校との連携は密でありました。

学校と地域との結び付きの大切さについては、私も石川邦彦さんと同じ考えを持っていました。そして、地域の皆さんへの感謝の気持ちを表し、より地域との結び付きを強めることができないだろうか、知恵を絞りました。そして石川邦彦さんも含めたいろいろな人にも相談し、私の頭の中では、「柏尾会」の原型ができあがりました。規約もつくりました。それは、単なる教職員とPTA役員が定期的集まる会ではなく、学校に熱い思いを寄せてくれている地域の方々にも出席していただく会をイメージしてのことでした。

その実現に弾みをつけたのが、私の在任中に指定を受け研究していた「幼稚

園・保育園・小学校連携事業モデル校」での研究発表会の反省会だったように記憶しています。その研究内容は第1・2学年が幼稚園・保育園との交流、第3・4学年が地域の人々との結び付き、第5・6学年が学区の中学校との連携を中心にしていました。この反省会には、その当時星川小学校の校長だった石川邦彦さんにもご出席いただきました。

そんな形で平成9年に「柏尾会」が正式にスタートしました。私が主催して開催したのは、その1回だけでした。それを後任の校長さんが引き継ぎ、平成23年で15回目を開催するに至っています。

出席してくださる地域の方がいらっしゃるから、会は成り立つ。立ち上げるよりも、続ける事の方が数段難しい。音頭取りの校長よりも、事務全般を引き受けている副校長がずっと大変だ。こうした多くの方々に感謝しつつ、次の「柏尾会」を楽しみにしている私である。（柏尾小学校第9代校長 廣海 久彌）



<平成23年の柏尾会>

<柏尾小学校の校長先生を務められた方々>

— 敬称略 —

初代	： 和田 正五 (昭 44. 4-昭 47. 8)	第二代	： 深井 テル (昭 47. 9-昭 50. 8)
第三代	： 渋谷 重夫 (昭 50. 4-昭 53. 8)	第四代	： 村上 連 (昭 53. 9-昭 56. 8)
第五代	： 若松 京子 (昭 56. 9-昭 60. 3)	第六代	： 大柳 實 (昭 60. 4-昭 63. 3)
第七代	： 佐藤 文昭 (昭 63. 4-平 03. 3)	第八代	： 石川 邦彦 (平 03. 4-平 07. 3)
第九代	： 廣海 久彌 (平 07. 4-平 10. 3)	第十代	： 齋藤 二三子 (平 10. 4-平 14. 3)
第十一代	： 堀田 暁夫 (平 14. 4-平 17. 3)	第十二代	： 小原 俊樹 (平 17. 4-平 22. 3)
第十三代	： 卷木 博明 (平 22. 4～)		